

南部 職人のまち川尻 コース

見! 約400年前、加藤清正公によって町づくりが進められ、政治経済の中心地として発展した川尻地区。歴史を感じさせる町並みは必見です。伝統工芸品からお菓子屋さん巡りまで見所満載！

- JR川尻駅 0.3km
 - ① 岡町上組地蔵 0.4km
 - ② 木村政彦を育めた道場跡 0.1km
 - ③ 古城神社 0.2km
 - ④ 川尻公会堂
吉村彦太郎懐徳碑 0.3km
 - ⑤ 御茶屋と町奉行所跡 0.1km
 - ⑥ 熊本藩川尻米蔵跡
(外城蔵跡) 0.2km
 - ⑦ 熊本藩川尻米蔵跡
(御船手渡し場跡) 0.3km
 - ⑧ 熊本藩川尻米蔵跡
(船着場跡) 0.1km
 - ⑨ 下町のえべっさん 0.1km
 - ⑩ 薩軍本営跡 0.1km
 - ⑪ 小路町の本陣跡
(待賓館跡) 0.1km
 - ⑫ 瑞鷹 1.0km
- JR川尻駅 距離 約3.0km



①～⑫は、10～11頁で紹介しています。



お地蔵さまにはいろんな意味が…
あなた似のお地蔵さまがいるかも！？



伝
職 伝統ある職人の技も見逃せない！
お気に入りが見つかるよ。

中世から水運を利用して、熊本の外港として発展した緑川河口の川尻町。中国の明王朝のころ、出版された「図書編」の日本の港紹介に「開懷世利(かわせり)」の名が記されるほどの港町でした。今からおよそ400年前、加藤清正公によって町づくりが進められ、政治経済の中心地として発展。細川家の時代になると、藩主御茶屋をはじめ奉行所等が置かれました。港界隈には回船問屋・旅籠・船宿・料亭などが軒を連ね、今に残る「精靈流し」や「どんどや」などはそのころから始まった行事です。



御船手渡し場跡(国指定史跡)



河尻神宮

見! 河尻神宮

河尻神宮は、別名若宮さんとも呼ばれ古くから県内外から信仰を集める神社です。毎年10月に行われる秋季例大祭では、神輿・山車・舞などのほか、さがり馬や流鏑馬などが奉納されています。

① 岡町上組地蔵

チェックしながら
行こう → ✓

この地蔵堂には、何体もの石仏が安置されていて、六地蔵の一部もあります。ある夜、村田家(祖先の慈善家の禅僧が地蔵尊を建立)に泥棒が入った際に、地蔵さんが小さい子どもになって、「いふぞ、いふぞ」と言いながら後をつけ、泥棒を追い出したという泥棒退治の話があるそうです。

② 木村政彦を育てた道場跡



全日本選手権13年連続保持記録、天覧試合優勝などの記録を残し、「木村の前に木村なし、木村のあとに木村なし」と讃えられる、不世出の柔道家、木村政彦氏が、小学校時代に柔道の基礎を学んだ道場跡です。

③ 古城神社



肥後熊本藩第八代藩主細川斉茲公は隠居後、河尻城址の一部に別荘を築きました。その邸内に祠堂を建て、文化13年(1816)10月18日祭神に河尻家の祖、左大臣源高明の分靈を祀り、河尻三郎実明以下歴代城主を合祀し、今宮社と称したそうです。廃藩置県後、小路町十字路西北角に宮居を移し、古城神社と改称。昭和10年(1935)の河川改修の際に現在の地に移されたそうです。

④ 川尻公会堂、吉村彦太郎懐徳碑

かいとくひ



川尻公会堂は、昭和5年(1930)9月、瑞鷹株式会社の吉村彦太郎氏によって地域社会発展のために寄贈されたものです。公会堂の前には、翌年12月、吉村翁の遺徳をしのび「懐徳碑」が建立されています。

見! 平成2年、川尻の古名を元に作られた「開懷世利六菓匠(かわせりろっかしょう)」。6軒(「天明堂」「菓舗いしら」「立山菓舗」「菓舗梅園」「菓舗かずさや」「岩本菓舗」)の和菓子店が、新しい銘菓を作ろうと集まつたのがはじまり。和菓子と川尻の町おこしを結びつけた活動を行っています。

⑤ 御茶屋と町奉行所跡



御茶屋は加藤家時代から川尻に置かれていました。現在の公会堂裏手付近にあり、藩主の旅行の折、休憩所として使われていました。また、細川家第二代忠興公ご宿泊の記録もあるそうです。また、町奉行もこの御茶屋内にあり、寛永11年(1634)から明治元年(1868)まで、58人が奉行を努め、最後が上田休(久兵衛)だそうです。この川尻奉行所は、薩摩軍の管理を兼ねるという高い格式だったそうです。

⑥ ⑦ ⑧ 熊本藩川尻米蔵跡 (国指定史跡)



熊本藩川尻米蔵跡は、江戸時代に緑川や加勢川を利用して熊本藩の年貢米を集積・搬出する拠点になっていたところです。1680年に藩の年貢米倉庫として建てられた米蔵は、藩政時代には東蔵・中蔵・外城蔵にそれぞれ3棟、合計9棟があり、年間20万俵もの年貢米が集まっていたようです。現在残っている米蔵は、外城蔵の二百坪蔵と六十坪蔵の2棟のみとなっています。水運を利用して米蔵に年貢米や物資の荷揚げをしていた船着場は、合計14段の石段が約150mにわたり造られています。平成22年に「熊本藩川尻米蔵跡」として外城蔵跡と船着場跡が、平成24年に御船手渡し場跡が国の史跡に指定されています。

⑨ 下町のえべっさん



川尻の町には、恵比寿堂が4ヶ所あり、「えべっさん」と親しく呼んでいます。川尻船着場をはさんだ(川尻町)下町と外城町、店町、岡町はいずれも川のほとりに海から来た商業神の恵比寿神を祀り、昔栄えた町だそうです。



酒蔵「瑞鷹」の
建物も魅力的
(景観重要建造物)

⑩ 薩軍本営跡(今村家住宅)



西南戦争の際、陸路熊本に向かった薩軍は、川尻に熊本鎮台攻略の拠点として本営を構えました。川尻の町は西郷隆盛以下、1万5千人あまりに及ぶ兵に埋め尽くされたといいます。この建物は本営として使われた当時の姿を今もとどめ、建物前には「明治十年戦役南州翁本営跡」の碑が建てられています。また、川尻地区が、水上交通の要所・商業の拠点として肥後五ヶ町に数えられた繁栄期を代表する建物で、国の登録有形文化財になっています。

⑪ 小路町の本陣跡(待賓館跡)



本陣跡は、参勤交代や所用で往来する薩摩藩や相良藩の藩主やその一族の人たちの宿泊の場所でした。薩摩藩主、島津忠義の実父島津久光が公武合体を勧めるため、兵1,000人を率いて上洛する際や、皇室から相良家へ輿入れする姫一行も宿泊されたそうです。現在は、瑞鷹の倉庫となっています。

⑫ 瑞鷹株式会社



創業慶応3年、熊本でいち早く清酒製造に取り組んだ蔵元として知られる「瑞鷹」。瑞鷹本社、吉村社長邸は「景観重要建造物」に、本社南側にある瑞鷹酒蔵資料館と蔵2棟は「景観形成建造物」に指定されています。その「瑞鷹」の「東肥大正蔵」がくまもと工芸会館に隣接しており、双方から自由に行き来することができます。市販されていない焼酎の試飲やはかり売り、料理酒やお正月のお屠蘇(とぞ)で知られる「赤酒」の資料等が展示されています。